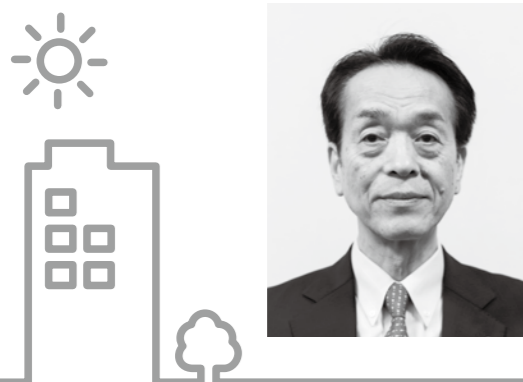


経営資料

No.151 会社訪問

代表取締役社長 高木 裕明 氏



伊勢久株式会社

会社プロフィール  
 代表者:代表取締役社長 高木 裕明  
 本社:〒460-8558 愛知県名古屋市中区丸の内三丁目4番15号  
 TEL:052-961-8311(代表) FAX:052-961-5684  
 事業所:名古屋・名古屋東・名古屋南・豊橋・岐阜・多治見・四日市・津・三島・掛川・神奈川・東京・千葉・つくば・鹿島・国際部・貿易事業部・陶芸部・営業開発部・瀬戸工場・タイセキユ(バンコク)  
 創業:宝暦8年(1758年)  
 設立:昭和5年12月10日  
 資本金:1億円  
 従業員:約230名  
 事業内容:ファインケミカル・バイオケミカル・ファインセラミックス製品、および理化分析機器の提供。医療業界中心に臨床検査薬・試薬・医療機器・器具などの提供。陶芸用品の提供。先端技術企業支援他。  
 URL:https://www.isekyu-jp.com/

聞き手:梅垣喜通(広報委員長)、岡田康弘(事務局長)、取材・撮影・編集:クリエイティブ・レイ(株)

I·S·E·K·Y·U 江戸・宝暦8年創業、広範な分野に製品・技術・情報を提供。自社製造製品も手掛け、変化の中でアクティブに事業を開拓。

高木社長は東海科学機器協会の理事長も務められています。まずは御社の事業内容をお聞かせください。

弊社は1758年(宝暦8年)に薬舗として創業しました。名古屋市を本社として、今年で263年目となります。社名の由来は、当時薬種問屋「伊勢屋佐兵衛」に奉公していた初代久兵衛が独立を許され「伊勢屋久兵衛」の屋号で創業したことによります。

その後、多種多様な薬品や機器を扱う理化学関連の商社として歩み、医療・医薬、化学、自動車、窯業、食品など広範囲にわたる企業、研究所、さらには大学、病院など広範な領域のお客様にサービスを提供しています。取り扱う製品は、試薬・化成品・臨床検査薬・セラミックス原材料・分析機器など多彩で、プラントなどの設備も提供しています。



◀本社外観(昭和5年建設～現在に至る)

そして製造部門では、「必要なものを、必要な時に、必要な量だけ」ご提供させて頂くことをモットーに試薬を独自にカスタマイズして提供する「受託調製サービス」を行っています。

近年ではスマートフォンなどタッチパネルへの耐指紋性や耐汗性評価用の試薬など物性評価用試薬の開発にも力を入れてユーザーニーズにお応えできる強みを活かしてチャレンジを続けています。

江戸時代・宝暦年間に創業した老舗で、今もサイエンスや最先端の企業活動を支えていることに敬服します。

ありがとうございます。会社組織となった時の社長であり、創業者から数えて5代目にあたる高木寅太郎は「積極進取」の精神を掲げていました。「積極的に企業も人間も変化していかなければならず、過去にしがみついているはだめだ」ということです。私は創業者から数えて



10代目になりますが、その精神は常々大切なものだと強く意識しています。

◀明治40年頃の本社外観

御社は東海、関東地方に営業拠点が多数ありますね。東海地区から関東に向け営業拠点が15ヶ所あり、一番東が茨城県つくば営業所です。海外ではタイのバンコクに拠点があり、工場は愛知県の瀬戸市にあります。

経営資料

言わば名古屋から東海道を上るように営業エリアを拡大してきたような形で、その背景には、お客様が弊社に対して「試薬」を何よりお望みだったことがあります。“夕方までのご注文に対して翌日にはお届けする”ことが出来るサプライチェーン作りのためには、お客様の近くに拠点が無いといけません。さらに、扱う薬品には毒劇物や危険物があり、厳重な安全管理が必要ですので、自社で管理が行き届く営業拠点や倉庫が必要でした。

そのような経緯で拠点を拡大しながら、試薬に留まらず、機器や化成品、設備など分野を拡大してきています。

企業関連のお客様では、どのような分野が多いのでしょうか。

1つはトヨタ自動車に代表される自動車業界です。東海地区はトヨタ自動車をはじめ自動車関連の企業が集積しています。また、三重県の四日市コンビナートに展開する化学関連の企業のお客様も多数お取引させていただいておりますが、この四日市コンビナートの企業も、やはり自動車業界とのつながりが強くあり、生産する樹脂などは自動車部品に多く使われております。

そして関東では千葉や鹿島のコンビナートに展開する化学関連企業、さらに企業だけでなく研究所なども含みますが、近年ではライフサイエンス分野へ事業を拡大しています。

263年という歴史は大変重いものだと思いますが、社長に就任された時はどのような時期でしたでしょうか。

私が社長になったのは1993年(平成5年)で、バブル崩壊後の平成不況の真っ只中でした。お客様である自動車業界や窯業、石油化学・鉄鋼などは、円高のために低迷していたわけです。そうした中での重要課題は、成長分野へのシフトで、ライフサイエンス分野に積極的に事業を展開し、特に遺伝子分析の関連機器・試薬な

どの拡販につとめ、国立研究機関や大学市場に対する取り組み強化など、先を見据えて取り組みました。

従業員がより密な営業活動に奮闘すると共に、ユーザーニーズにお応えすべく、当社独自のWeb受注システムを開発することも行っています。

こうしたことを経て、お客様に“有益な情報”を提供していく意識も強くなってきたと思います。「新しい製品、新しい技術、新しい情報をつなぐこと」で、社会を、そして一人ひとりの幸せを形にしていきたい、というコンセプトを持ちました。

“時代と共に変わる必要性”を実行されてきたことが素晴らしいと思います。社内改革のようなものはされましたか。

営業グループ同士や各営業所間の連携がスムーズになり、会社の総合力をより発揮できるようにするための組織改編を行いました。

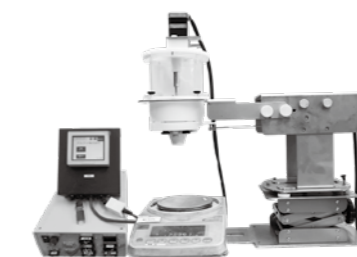
また、20年以上前になりますが、社員が中心となってCI(コーポレートアイデンティティ)活動を行いました。当時、CIは一種の社会的トレンドのような雰囲気もあり、伊勢久の何が良くて、何が問題なのか、何を残して何を指すべきなのか、外部からはどう見られているのか、などを明確にするために、かなり広くアンケートを実施させていただきました。

その結果「信頼と歴史があって、安心・安定して取引ができる」「嘘はつかない、裏切らない」など、お褒めの言葉をいただく一方で「もっとアクティブであってほしい」「もっと情報を貪欲に提供して欲しい」「安定志向が強すぎるイメージ」など、弊社に変化を望むご意見も多数あり「このままではいけない!」ということを強く意識させられました。

そこで平成4年から、新キャッチフレーズに「Big Frontier, Big Tomorrow - 人・もの・未来を開拓するアクティブ伊勢久」を掲げました。



岡田精工(株) ロードセル式錠剤硬度計 PC-30



アルファ(株) 高精度粉体自動計量機 ゼロバランサー



人工指紋液・人工汗液 タッチパネルなどへの耐指紋性や耐汗性評価用試薬

## 経営資料

このCI活動では、実は社名の変更についても社員にアンケートを取りました。今風のカタカナ表記の社名などを望む声が多ければ、変更する覚悟も持っていました。しかし結果は「伊勢久という名前は生活の一部になっているので、なくして欲しくない」等、伊勢久の名を残すことを望む声が大半だったのです。その時、私は社員の会社への愛着を感じ、非常に嬉しく思いました。

**これまで経営者として、最も困難を感じた事をお聞かせいただけますか。**

近年一番苦労したのは、何といても2008年のリーマンショックです。この年は創業250周年にあたり、4月にはお取引先様を招いて創業250周年を祝う式典を行うなどお祝いムードだったのですが、9月にリーマンショックが起き、ムードは一変しました。弊社は9月決算で10月から新年度になるのですが、リーマンショックと共に始まった251年目は本当に苦境の年でした。

何より世界的な金融危機の中、需要が一気になくなったのです。象徴的だったのが自動車産業です。自動車との関連がある四日市のコンビナート企業との取引も軒並み減少し、売上は全社で2割近く減少しました。

当然経費削減をしないと赤字決算になってしまうので、まずは取締役報酬をカットし、社員の給与はカット出来ませんが、ボーナスは社員会との取り決めて「賞与は会社の業績に合わせて」ということがありましたので、非常に申し訳ないながら大幅にカットしました。営業利益を1円でも黒字にしようと言う思いで恥も外聞も捨て去り、ありとあらゆる経費削減を行い、この難局を乗り越えようと、顧問弁護士や会計士の顧問料も下げて頂くなどお願いし、社員にも大変な我慢をしてもらいました。

その甲斐もあり、また本当に社員が踏ん張ってくれて、リーマンショック直後の決算でも営業黒字を計上することが出来ました。さらにその2年後にはリーマンショック以前の業績を回復することが出来、そこからは順調に業績を伸ばすことが出来ています。

このリーマンショックの苦境の中で弊社を支えてくれた分野は、臨床検査薬でした。病院の活動は不況の中でも続きますので、臨床検査薬の売上は落ちずに弊社を助けてくれることとなりました。

**困難とは反対に、これまで経営者として最も喜びを感じた出来事はどのようなことでしょうか。**

喜びを感じたことも、リーマンショックの時なのです。やむを得ずですが、社員のボーナスをカットしなければならなかったので、内心では「退社する社員が出てしまうかもしれない」と感じていたのが正直なところでした。しかし、一人も辞めることがなかったのです。

少し後に、とある社員が「外聞もへったくれもなしに、経費削減でみんな一丸になって乗り越えた会社は強いよ。この会社について良かった。」と口にしてくれまして、本当に言葉にならないほど嬉しかったです。経営者だけではどうにもならなかった苦境を、社員が一致団結して、乗り越えてくれたことをありがたく感じるばかりでした。

その2年後、3年後と業績を回復することが出来て、ボーナスを社員に還元することが出来ましたが、あそこまで経費削減に手をつけるようなことは、もう二度とやりたくないです。

**御社の経営方針、経営理念をお聞かせください。**

創業以来掲げられてきたのは「誠実、親切、積極進取」です。その後、時代とともに変遷し、最近社員と共に作り上げたのが「幸せは挑戦から生まれる」というコンセプトで、そのコンセプトのもと「よりよく生きる社会を目指して」としています。

経営理念は3つあり、1つ目が「先端技術の開発支援」、2つ目が「人類の健康への貢献」、そして3つ目が「アメニティ文化の構築」です。アメニティという言葉は「快適な」という意味です。ここには弊社が明治時代から中核事業の1つとしてきた陶磁器関連の分野が関係しています。陶芸は、作陶をして絵付けをして楽しみ、個々のゆとりをもたらすものです。そのように、人々が快適に感じる心の潤いを構築することに貢献しようという思いから、3つ目の経営理念としています。

**御社の今後の課題についてお聞かせください。**

課題は大きく2つあり、1つ目は人材の獲得と育成です。試薬製品、臨床検査薬、セラミックス関係、分析機器、産業廃棄物、食品衛生検査など色々な事業分野を担わせていただいておりますが、それぞれ専門知識を必要とします。それだけ専門化した事業を推進できる人材がこ

## 経営資料

人としては透明性のある誠実な企業活動をするうえで、ISOの内部監査が一番大事だと思っております。

**高木社長の個人的なことも伺わせてください。**

**座右の銘や、感銘を受けた愛読書などはございますか。**

座右の銘は「実るほど頭を垂れる稲穂かな」です。色々な方々のおかげで263年続いてきているわけです。お客様はもちろんのこと、社内の掃除に来ていただいている方にも、しっかりと礼を持って「おはようございます」とあいさつが出来るようなことが大切だと思っていて、社員にもよく言っております。そうした事に真摯に向き合っていないと、我々の将来はないという心構えが大切だと思っております。

読書は、所属するロータリークラブに読書サロンという同好会があり、普段はまず手に取らないような作家の作品にも触れていろいろな刺激を貰っています。最近読んだ中では原田マハの『風神雷神』や2020年に直木賞を受賞した馳星周の『少年と犬』がとても面白かったです。

**余暇に楽しんでいる趣味などはございますか。**

10年ほど前までは、業界のお付き合いなどでゴルフバッグが全国のゴルフ場を飛び回っていましたが、腰を痛めてしまい最近はプレーしておりません。それからは足腰を鍛えるため、ウォーキングに励んでいます。

本社からほど近い名古屋城の外堀を廻ったり、自宅近くの緑地を廻ったりと日々歩くうちに、実は痛めていた腰が癒えてきまして…また兄弟や親類など気の置けない人たちとプレーを再開しようかと思っております。その他、温泉旅行も好きですので、コロナが収束しましたら家族と一緒に出かけたいと思っています。

**最後に、当協会へのご意見をお聞かせいただけますか。**

私も東海科学機器協会の理事長として、会員の方々が協会に何を求めているのかを常に気にしています。日科協でないといけないような法規制の変更や経産省・文科省の情報、技術情報、市場の最新ニュースなど、この機関誌で発信する情報を充実させていただくのが一番ありがたいと感じています。そしてJASIS慕張・関西を引き続き発展させていただき、新しい科学技術の発信ステーションとしていただきたいと思っています。

れからも必要なわけで、人材の獲得と育成は急務です。

もう1つは、コロナ禍の課題として、海外も含め直接面談が出来ないユーザー様が結構あります。今はWebで行っているものの、プロジェクトがなかなか再開出来ずにいたり、遅延していたりといった問題は起こっています。コロナ禍でもこうした問題を解決していくことが大きな課題だと考えています。

**今後の事業目標や事業展開についてお聞かせください。**

やはり日々進化を続けている次世代のテクノロジーに対応していくことです。

カーボンニュートラル社会が唱えられる中、自動車産業も大きな変革の時を迎えています。次なる展開のために、脱内燃機関、リチウムイオンバッテリー関連や燃料電池関連の研究開発に必要な資材の提供や分析機器の提供を、今後も進めていきたいと思っています。さらに、カーボンニュートラルに適合する資材、情報、システムなどを研究し、お客様と一緒に、役立つ仕組みを作り上げていきたいと思っています。

もう1つ、生命工学において遺伝子分析やゲノム編集、免疫治療などといった分野の研究が今後益々活発になると思います。わが国政府もライフサイエンス研究を重点分野と位置付けており、今後もこの分野に多くの予算が振り分けられると思いますので、弊社も医療や医薬品業界に対して、今まで以上に対応できる体制を作っていくつもりです。

さらに瀬戸工場も生産体制を強化しており、受託調製サービスを今まで以上に対応できるようにしていきます。

**薬品の管理も厳密さが求められると思われます。**

おっしゃる通りです。扱い品目には毒劇物や危険物が多くありますので入出庫・在庫の状況などはコンピュータ管理し、過去の一つ一つの出入り全てを細かくさかのぼれるようにしています。盗難に備える警備なども細心の注意を払っています。

そうした管理のほか、環境面においては2002年からISO14001の認証を取得し環境負荷の低減につとめております。又、最近は経営課題にもISOを取り入れており、徹底した内部監査を実施することにより、各部署の問題点をいち早く把握し対処するようにしております。私個